

# 水俣病究明に終止符か

## 九月に最終データ

### 熊大研究班 国際学界に発表

熊大医学部水俣病研究班の内田楨男(生化学)・武内忠男(病理学)両教授と徳臣晴比古(内科)助教および班員で現神戸医科大学の喜田村正次教授は、アメリカ国立衛生研究所のレオナルド・T・カーランド博士(防疫部長)の招きで、九月十三日からローマでひらかれる第二回国際神経学会に出席、水俣病の原因について最終データを発表することになり準備をすすめている。



内田教授



武内教授



徳臣 助教授



喜田村教授

## 工場側責任免れぬ？

水俣病の原因物質については、熊大研究班がすでに昨年夏、水俣湾内でとれたヒバリカイモドキ(貝の一種)から毒物とみられる有機水銀化合物の抽出に成功、日本医学新報十二月十日号に発表して学会でも一応確認された。その後同研究班ではこの結論をさらに学問的に裏付けるため、毒物の合成と解析の最終的研究に入っており、近く研究に終止符をうつことゝなまできている。

わったが、さらに学者の良心の立場から合成実験を行なっている。班の結論はカーランド博士も認めており、工場の責任は免れないだろう」と言明した。

いすれにしても水俣病の原因究明は、三十一年の研究班発足以来、六年ぶりにヒリオドをうつことになる。

なお同研究班では熊大関係三教授のローマ派遣の旅費約二百万円のうち、熊大が負担しているが、いままや県当局へ働きかけているがいまのところ見通しなく、県民の協力を求めている。

【水俣病】昭和二十八年水俣市の海岸線一帯に発生した奇病。二十八年一人、二十九年十二人、三十年九人、三十一年四十三人、三十二年三人、三十四年十四人、三十五年五人合計八十七人が発病、うち三十四人が死亡した。症状は手足がしびれ、難聴、失明などの特徴

このため同班では二月中旬に予定されている経済企画庁の水俣病研究協議会で最終データを提出するほか、近く班としての研究講演会をひらいて、これまでの研究経過を明らかにするとともに、九月の国際学会に熊大の研究成果を問う取組である。

これについて同研究班の有力メンバーの一人は十一日「班としての対外的な研究は毒物抽出で一応終